

科名 婦人科
 対象疾患名 卵巣癌(再発)
 プロトコール名 GEM+CBDCA(b)アロカリス併用

Rp	形態	ルート	薬剤名	投与量	コメント	1	...	8	...	21
1	点滴注	メイン	生理食塩液	250mL	ルートキープ	↓		↓		
2	点滴注	側管	グラニセトロンバッグ	1mg	30分かけて	↓		↓		
			アロカリス	235mg						
			デキサート注	4.95mg	30分かけて	↓		↓		
			又は 側管 パロノセトロンバッグ	0.75mg						
			アロカリス	235mg	30分かけて	↓		↓		
			デキサート注	4.95mg						
3	点滴注	側管	ゲムシタビン	800、1000mg/m ²	必ず30分かけて	↓				
			5%ブドウ糖	100mL						
4	点滴注	側管	カルボプラチン注	AUC4	1時間かけて	↓				
			生理食塩液	250mL						
5	点滴注	側管	デキサート注	6.6mg	30分かけて			↓		
			生理食塩液	100mL						
6	点滴注	側管	ゲムシタビン	400,500,800,1000mg/m ²	必ず30分かけて			↓		
			5%ブドウ糖	100mL						

★1クール=21日

～MEMO～

催吐レベル3(30～90%)

- ・ 卵巣癌術後補助化学療法、再発時化学療法として施行
- ・ 1コース=21日で、次コース開始基準は好中球数1500/mm³以上、血小板数10万/mm³以上
- ・ day8投与基準は、好中球数1000－1500未満、血小板数7.5万－10万未満の時は、GEMをday1投与量の50%へdown。

また、好中球数1000/未満or血小板数7.5万未満の時は、day8はskip。

- ・ GFRの計算法は、Jelliffe式を用いる。
- ・ day2-4にデカドロン1回4mgを1日2回朝、昼食後に内服(8mg/day)。

<ゲムシタビン>

ゲムシタビンは必ず30分で投与(副作用増強防止のため)

禁忌:間質性肺炎、肺線維症のある患者、胸部への放射線療法との併用
 血管痛の対処方法:

- ①静脈炎・血管痛を予防するために以下のことを考慮し、点滴の針を刺す。
 - ・血流の良い太い血管をできるだけ使用する。
 - ・毎回、できるだけ穿刺部位を変える。
 - ・長く留置していた静脈、過去に静脈炎を起こした血管は避ける。
- ②点滴中は、以下のことを考慮し、投与する。
 - ・点滴の入っている腕を予め加温し、血管を温めて広げ、血流を良くする。
 - ・メインの生理食塩水の投与量を増やし、より希釈しながら投与する。